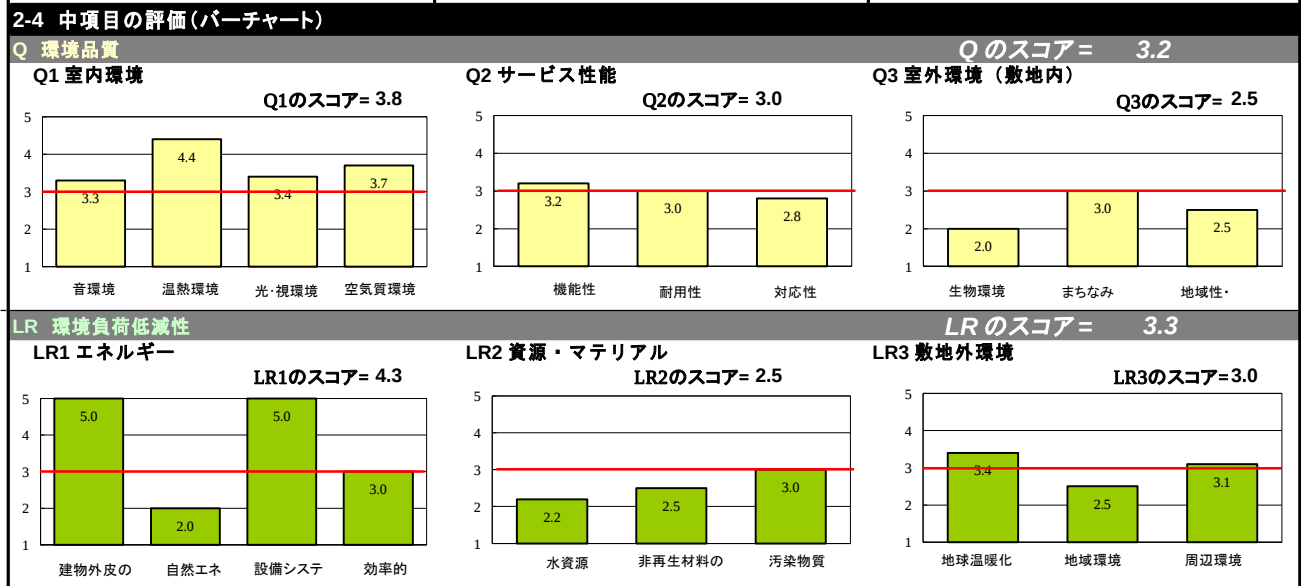
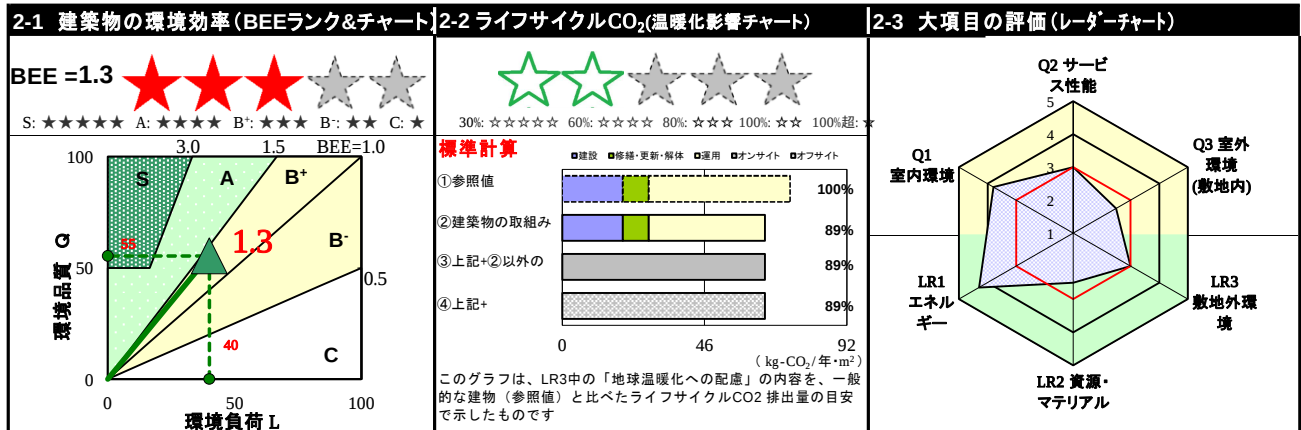
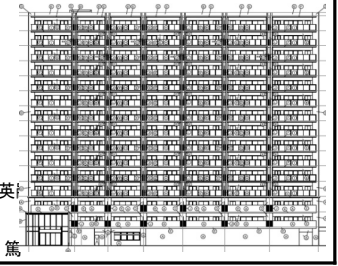


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市下小阪1丁目 計画	階数	地上15階、地下0階
建設地	大阪府東大阪市下小阪	構造	RC造
用途地域	市街化区域・準防火地域・近隣商業	平均居住人員	236 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2025年12月1日
敷地面積	2,819 m ²	作成者	株式会社 都市建一級建築士事務所 山本 英
建築面積	727 m ²	確認日	2025年12月1日
延床面積	7,816 m ²	確認者	株式会社 都市建一級建築士事務所 別所 篤



3 設計上の配慮事項		
総合 外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めています。		その他 特になし。
Q1 室内環境 F☆☆☆を全面的に採用しています。	Q2 サービス性能 給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用しています。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 特になし。	LR2 資源・マテリアル 外壁に使用する断熱材において吹付ウレタンA種1Hを採用しています。	LR3 敷地外環境 外部に漏れる照明に点滅・移動・着色等をしません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)東大阪市下小阪1丁目 計画							
建設地		大阪府東大阪市下小阪							
用途／区分		集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B+	
①	CO2削減							3	
②	みどり・ヒート アイランド対策							2	
③	断熱性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					5		
④	エネルギー消費性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					2		
		評価対象外						評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
エネルギー消費量の報告							対象外		
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.4	3	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5	
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					2.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称				考慮事項			
特に配慮した事項									